

畜産農業における女性の起業を促進するために さまざまな特徴や課題、活動支援策を考える

片倉 和人 農業工学研究所

1. はじめに 調査の目的と方法

酪農、肉牛、養豚、養鶏などの畜産経営において女性が生産活動及び経営管理面で重要な役割を担っているのはよく知られている。近年、こうした畜産経営をベースにしながら、畜産物の加工・直販売などの起業活動に新たに取り組む女性たちの動きがみられるようになってきている。しかし、農村女性の起業活動という観点からみた場合、女性畜産農業者による起業活動の数はまだ必ずしも多くない。

農水省女性・就農課の二〇〇二年度調査によれば、全国には七千七百の農村女性起業が確認されているが、その多くを占めるのは、味噌、漬物類等の食品加工品の製造販売である。生活改善グループや農協女性部あるいは地域婦人会などの活動を基盤に、その延長線上に取り組まれている場合も多く、グループ活動として取り組んでいるのが大半を占めている。また、担い手の多くは高齢の

女性たちで、労賃評価はわずかでも自分の生きがいになればというのが動機であったり、自給的な農産加工品や伝統的な郷土食をベースに商品化したケースが多いなどの特徴を持っている。

しかし、こうした特徴は、女性畜産農業者による起業活動にはそのまま当てはまらないケースが多い。加えて、畜産物の加工販売については、加工技術の習得をはじめ許認可手続きや資金調達などの面でも、起業する場合の条件が厳しいと指摘されている。

一方、畜産物への品質や安全性に対する消費者の関心が高まる中、消費者ニーズを的確につかんで商品開発に反映させていく必要があり、生活者の視点をあわせもつ女性農業者の能力を活かした活動の展開に期待が寄せられている。また、体験・交流活動などについては、畜産は子供たちの関心が高い動物を扱っているため、学校教育の側から体験教育の場として熱い注目を集めている一面もある。

起業活動への意向を持ちながら、実際に踏み出せずに躊躇している畜産関係の女性たちは少なくないはずである。まずは、女性畜産農業者による起業活動の実態を明らかにすること。特に起業にあたっての阻害要因を特定し、新たな取り組みに必要な支援が何なのかを明らかにすれば、女性たちが起業活動に取り組む助けとなり、いつそうの促進につながることを期待できる。

女性畜産農業者の起業活動促進事例調査は、以上のような目的で実施された(注1)。対象事例の選定に当たって、既存の農村女性起業リスト(注2)を参考にし、また道県の改良普及主務課を中心に地域の農協や市町村の担当者などの協力を得た。起業活動に携わる女性たちから、家族構成や畜産経営の概況を踏まえた上で、起業活動の内容、経緯、効果、問題点などについて聞き取りを行った。表は、全国で二十八事例を調査したうち、報告書に紹介した事例の一覧である。

本稿では、今後の起業活動の促進に向けて、解

表 女性畜産農業者の起業活動事例(報告書で紹介した事例)

| 起業名(農場名) | 地域 | 活動の展開 |
|-----------------------|-----|-------------------------|
| 1. 酪農をベースにした活動事例 | | |
| クリーマリー農夢 | 北海道 | 加工(生乳・ヨーグルト・バター・チーズ)→酪農 |
| ファーム未来・マッケンジーファーム | 北海道 | 酪農→民宿→レストラン |
| 佃半田ファーム | 北海道 | 酪農→加工(チーズ)→レストラン(喫茶店) |
| リパティヒル広瀬牧場・ウエモンズハート | 北海道 | 酪農→体験→加工(ジェラート) |
| 体験館TRY TRY TRY | 栃木県 | 酪農→体験→レストラン |
| アイス工房もい | 栃木県 | 酪農→加工(アイス) |
| 袖ヶ浦市酪農婦人部みずき会 | 千葉県 | 酪農→グループ加工(アイス) |
| 奥野牧場・加工工房 牧場のハーモニー | 千葉県 | 酪農→加工(チーズケーキ) |
| ふれあい農園太田 | 長野県 | 酪農→民宿・体験 |
| 安富牧場・ファミーユ | 岡山県 | 酪農→加工(アイス)→体験→堆肥・貸農園 |
| 酪農家民宿遊牧民 | 広島県 | 酪農→民宿→加工(アイス) |
| 植大山牧場・夢工房うしおじさん | 香川県 | 酪農→直販→加工(パン・アイス・ヨーグルト) |
| 安藤農場 | 香川県 | 酪農→堆肥 |
| きいれ牧場 | 鹿児島 | 酪農→民宿・体験 |
| 2. 肉牛をベースにした活動事例 | | |
| 南夢がっぱい牧場 | 北海道 | 肉牛→加工→レストラン |
| ミートショップ前田牧場・ファーマーズカフェ | 栃木県 | 肉牛→直販(委託加工) 販売→レストラン |
| 3. 養豚をベースにした活動事例 | | |
| 南ハム工房まいおか | 神奈川 | 養豚→直販→加工→体験 |
| 岡本養豚 | 長野県 | 養豚→直販 |
| 前日笠農産 | 岡山県 | 養豚→加工→レストラン |
| 4. 養鶏をベースにした活動事例 | | |
| 手作りの店スズキ・ブリーマーケットふれあい | 静岡県 | 養鶏→直販→加工→直売所主催 |
| 潤美どろんこ村 | 愛知県 | 養鶏・水田→体験・民宿→加工・レストラン |
| 南砂本養鶏・サーちゃんのたまたまらんど | 山口県 | 養鶏→直販→加工(パン) |
| 農家レストランほっとかん | 鹿児島 | 養鶏→レストラン |

決策や支援策などを考える上で参考になると思われる点を中心に、調査結果から畜産関係の起業活動のさまざまな特徴や問題点を、動機・発展段階、活動形態、活動内容、課題と支援に分けて報告したい。

2. 動機・発展段階

起業活動を始めるきっかけは、畜産経営の内部要因によるものと、外部要因によるものがある。女性たちの個人的な事情として、事故や病気で従来の作業が困難になったり、畜産が元々好きでなかつたりとか、やむをえない場合もあるが、子育てが終わって漠然と何か物足りない気持ちを抱えていたり、これまで抑えてきた夢を実現できる環境が整ったというように、自己実現の欲求が原動力になっているケースも多い。家族の事情としては、後継者が加わることが起業活動のきっかけになっていく事例が目につく。

畜産経営をめぐる様々な外部環境の変化が、起業活動の直接のきっかけや背景になったりしている例も多い。酪農であれば牛乳の生産調整、肉牛ならBSE(牛海綿状脳症、狂牛病)問題、養豚なら豚肉価格の下落などが、外部要因の一例である。輸入畜産物の増加や偽装表示問題など、畜産物の安全性をめぐる消費者の不安が高まる中、自分の生産物を直接消費者に届けたいとの思いを、起業活動にとりくむ生産者のほとんどが持っている。

一般的な発展段階を仮に描けば、次のようになるのではないだろうか。準備中↓起業したばかり↓軌道に

乗るまで↓新たな展開

起業活動が抱える問題点は、当然、こうした発展段階のどの時点に位置するかによって異なる。調査事例は、起業してまだ一年そこそこの試行錯誤の段階のものから、すでに二十年以上がたち成熟段階に達するものまでさまざまである。活動期間は平均で約七年、起業後五、六年経っている事例が最も多い。軌道に乗れば、一つの部門にとどまらず、新たな展開を考えたり、すでに乗り出しているケースがほとんどである。

3. 活動形態の特徴

個人経営が圧倒的に多い畜産での起業活動

一般的に農村女性の起業活動の場合は、地域の女性同士がグループで活動している例が大半を占めるといわれる。農水省女性・就農課の全国調査によれば、農村女性起業の七割がグループ経営、個人経営は三割にすぎない。しかし、畜産経営においては家族で忙しく働いているせいか、地域の女性畜産農業者がグループで起業活動を行っている例は意外に少ない。今回の調査では一事例だけであった。

また、複数の農家がグループを作って補助事業の対象となっている場合でも、実質は個人経営といえる起業活動が多々みられる。従来の団体を対象とした補助事業の仕組みと女性畜産農業者の起業の実態との齟齬が指摘できる。

部門経営という形で起業を担う女性たち

個人経営の場合は、女性が独立して経営する独立経営と、夫や親が経営主であり、女性は経営全体の一部門を別に経営している部門経営とに分けることができる。

畜産経営の場合は、女性による起業は経営の多角化の一環と位置づけられ、部門経営に分類される活動がほとんどである。調査した中で独立経営といえるのは、夫が農外就労している兼業農家の女性の二、三事例にすぎない。もちろん部門経営でも、大半は女性が主体となっているが、対外的あるいは名目上も女性が代表となっている例はまじく少ない。

二世代で畜産経営に取り組む家族では、起業活動やその新たな展開に際して、後継者の娘の存在が契機になっている事例が多い。息子が後継者として参画する場合は経営基盤の強化や規模拡大に向かうのが一般的なのに対し、女性である娘が後継者になる場合は新たな起業活動に向かう傾向がより強くみられる。

専門職などの雇用を必要とする場合

家族以外の従業員を雇って起業活動を行っている事例では、雇用での苦勞を体験する女性の姿が目立つ。女性であっても、経営者の立場で、男性や年上の雇用者に対処する必要が生じるからである。

特に目立つのは、資格や経験を持つ職人を雇う場合で、結局、問題解決のために自ら資格を取得したり、業務に必要な技術を習得することで解決に至ったという。経営者としての自覚や能力は経験のなかで培われる部分も大きいですが、雇用に関して、あらかじめ気をつける点があわかっていたら、という反省の声もある。

4. 活動内容の二つの展開パターン

調査事例の畜産部門は酪農、肉牛、養豚、養鶏のいずれかで、起業活動内容は、畜産物の直販、加工品の製造販売、体験・交流、農家民宿、レストラン・喫茶店、たい肥製造販売など多岐にわたる。しかし、畜産経営と全く関係ない分野はなく、いずれも畜産経営を活かした起業といえる。

それゆえ、家族労働を中心とする場合、畜産経営と起業活動とのバランスをとる必要があるが、畜産経営の規模拡大が新たな部門の起業かの二者択一のなかで後者を選択したり、起業活動が忙しくなり畜産経営の規模を縮小した事例もみられた。畜産経営の規模が小さいゆえに、新たな起業活動にとりくみやすいという一面もあり、規模拡大に向かうのが畜産経営の主流である中で、起業はそれとは異なるもう一つの道の可能性を示唆している。もちろん起業活動が畜産経営との間に相乗効果をもたらす場合も多い。

いずれにせよ、起業活動は畜産経営と密接にかかわっているため、ベースとなる畜産経営部門の

影響を色濃く反映した活動となる。酪農、肉牛、養豚、養鶏の畜産部門ごとに、時間的な経過と消費者との関係を考慮に入れて、多岐にわたる起業活動内容の展開の仕方をみていくと、それぞれに特徴があるなかにも、典型的な二つの展開パターンがあることに気づく。ひとつは加工品の製造販売を中心にした展開であり、もうひとつは、体験・交流を起点にした展開である。もちろん、二つが両立することも可能であるし、この二つに納まらない展開もあるが、大きな傾向としてこの二つを読み取ることができる。

①加工を主体とした展開

厳密性には欠けるが、消費者に畜産物をどのような形で届けるかという点に注目して、起業活動の内容を一直線上に並べてみると、加工品の製造販売を中心とする起業活動の展開が描ける。

生産者↓畜産物↓加工品↓調理品↓喫茶店・レストラン↓消費者

実際に加工に取り組む以前に、畜産物の直販を手がけていた例が多くみられ、また加工品の製造販売の後には、惣菜のような調理品の販売も手がけたいと夢が広がったり、あるいは食べる場も提供する喫茶店・農家レストランの起業へと繋がっていく。

このような展開は、いずれの畜産分野にも当てはまり、起業活動の原点には、自分が生産した畜産物に対する強いこだわり、自負がある。生産物

を自分で食べてみて、美味しいと思えるものを作る。美味いけれど通常の流通では採算が合わないので直接販売により自分の手で消費者に届ける加工品であっても原料の生産者だからこそできる商品を提供する。こうしたこだわりをもっている畜産物の直販は、設備や認可を考慮に入れると、起業の容易さの程度は、卵、精肉、生乳の順だろう。精肉販売は自分の生産物を出荷先から買い取る必要があり、生乳販売には相当な施設投資が必要となる。

加工品の製造販売を展開の中心に据えるのは、その種類の豊富さ、その先の展開の広がりによる。酪農からは、ヨーグルト、バター、チーズ、アイスクリーム、ジェラート、ソフトクリームなど多くの乳製品が作られる。加工施設は直売店や喫茶店も兼ねる工房も多い。肉牛からは、ハンバーグ、ステーキ、あるいは委託加工であるがレトルトカレーなどの商品が作られ、焼肉レストランの営業もみられる。

養豚からは、ハム、ウインナーソーセージなどの豚肉加工品、養鶏からは、卵(規格外や破卵)を利用したパン・ケーキ類が加工品の主流となり、喫茶店や鶏肉を使ったレストランへもつながっていく。

②体験・交流を主体とした展開

加工品の製造販売を中心とした流れとは別に、農業体験や消費者交流が起点となって、民宿やレ

ストラン経営へと発展する、もうひとつの展開の流れが描ける。

生産者↓体験・交流↓農家民宿↓レストラン・喫茶店↓消費者

農業体験や消費者交流は、従来、無償のボランティア活動とみなされていた活動だが、近年学校教育のなかで体験学習として組み込まれたり、牧場を訪れた観光客に宿や食事を提供することにより、起業活動として採算が取れるようになりつつあるという事情がある。こうした取り組みは主に酪農と養鶏の分野に多くみられる。牛乳や卵の生産過程は、子供たちに生命の循環を教える好都合な生の教材であり、また乳搾りや卵拾いなど取り組みやすい体験作業があるからだろう。なお加工品の製造過程も体験交流の対象になり、これは酪農と養鶏に限らない。養豚の分野での手作りウインナー教室などは、加工品販売にも一種の宣伝効果をもたらすという。

5. 特徴的な課題と必要な支援

技術習得に関して

畜産加工品は、名前が軒並みカタカナ言葉で表示されていることからわかるように、味噌、漬物など伝統的な農産物加工品と異なり、もともと地域に根ざした食べ物ではないものが多い。それゆえ、加工技術の習得には、地域外で研修を受けたり、自分たちで試行錯誤を繰り返す必要がある。

試作に地元の農業高校の先生の協力が得られた例もみられる。なお、加工の技術や施設がなくても、自分の生産物を原料に加工品を作りたいという場合は、儲かるかどうかは別にして、加工品の製造を外部委託する方法もある。

体験交流は、酪農の分野では制度化され、一定の基準を満たしていれば酪農教育ファームとして認証される。また、農家民宿の取り組みも、近年ファームインやグリーンツーリズムの名前で、先進地であるヨーロッパ研修旅行が企画されている。こうした視察や研修が、きっかけや大きな力になったという人が多い。

さまざまな許認可に関して

起業に際しては、加工品の製造販売、民宿、飲食店などの営業許可を取るために様々な許認可が必要となる。加工品については種類ごとに製造販売の許可を取る必要があるし、加工所を建設する場合には土地に関する法律もかわってくる。たとえば、都市計画法、建築基準法、農業振興地域の整備に関する法律、食品衛生法、水質汚濁防止法等の基準をクリアしなければならなかったという事例もあった。申請書の書類作りに町や農協や普及センターなどの協力を得られた人もいるが、ビジョンがないと行政側の言いなりに妥協しがちになり、それでは農家ならではの起業にならないという。逆に、ビジョンをもって担当者や粘り強く話し合いを重ねれば、行政側の協力も得やすい

という。いずれにせよ、許認可で苦労したという人が多く、許認可に関して、起業する人に参考になるマニュアル作りが望まれる。

資金調達に関して

制度資金の利用をめぐることは、前例がない、あるいは該当しないという理由で、公庫融資を断られたり、近代化資金の融資で厳しい審査を受けたり、苦労した例が目につく。結局、独自に金融機関から融資を受けて始めたという例も少なくない。資金面での個人負担が少なくても始められるという点で、補助事業の対象となるメリットは大きい。しかし、その後の展開で、補助事業ゆえに規則にしばられて自由にならない面も多々あることを知っておきたい。

また、起業にかかる費用を節約するため、建物を自分たちで手作りしたり、簡易なもので我慢したり、中古の機械を安く譲り受けたりして、皆さまざまな工夫をこらしている。女性ゆえに担保能力などの面で融資が受けられないという事情にもよるが、こうした事例は、必ずしも立派な施設を完備しなくても、農業者の素朴さをアピールしながら活動を始める手立てもあることを示唆している。

自然に恵まれた農村環境もいっしょに売る

体験交流や加工品購入のため、消費者が遠く離れた畜産の現場まで足を運んでいる。自然環境が

人を癒すからである。単に商品自体を売るのでなく、豊かな自然環境をバックに畜産の現場で売っていくという姿勢が大切となる。その意味で、自分の起業活動に力を注ぐだけでなく、視野を広げ周囲の環境整備への貢献が望まれる。直売活動や食事を提供する活動をしている場合、近隣の農産物を扱うなどの方法をとって、地域の中でよりよい協力関係作りを努力している例もみられた。

なお、住宅地に近い場所や畜産経営を営んでいる場合、周囲からの苦情などに直面することもあるが、加工品販売や体験交流など消費者と接する起業活動は、畜産生産について消費者や近隣住民の理解を得るために、直接的、間接的に役立つと思われる。

地域を越えたネットワークを力に

紹介した事例は、夫や家族の協力がうまく得られている典型的な事例が多いが、新しい活動ゆえに、夫、親、近所、JAなど身近な人たちであっても、「女のくせに」と周りから反発を受けることも予想される。遠く離れたマスコミや消費者が商品や活動を最初に評価してくれたら、女性起業のネットワークや、酪農教育ファームの仲間たちのネットワークなど、遠く離れた人々が大きな力となっている場合もある。

大きな可能性をもつ起業活動に向かって、まず第一歩を踏み出す女性農業者自身の勇気が必要であると同時に、家族や周囲からの女性の起業活動

に対する理解や支援ももちろん不可欠である。

〔注〕

(注1)

(財)農村生活総合研究センター(本年度より(財)全国農業改良普及支援協会に改組)は、○三年度、「女性畜産農業者の起業活動促進調査研究事業」を実施し、「女性畜産農業者の起業活動事例集」を刊行した。本報告は、筆者を含め、安里和晃、安倍澄子、工藤春代、原田英美、藤浦剛、諸藤享子の七名の研究者による共同調査の成果に基づいている。以上の方々とともに、快く調査に応じたくださった女性起業者の方々に深謝の意を表したい。

(注2)

- ① 『農山漁村の女性起業200選 上・下』(財)農山漁村女性・生活活動支援協会、○三年三月
- ② 全国農業新聞いきいきアグリウーマン取材班編『もうひとつの農おこしいま女性起業が元氣!』全国農業会議所、○三年八月
- ③ 『女性起業活動リスト(○二年度)』関東農政局生産経営部、○三年三月などを参考にした。

或る警官官僚の半生

君は部下とともに死ねるか

堀自行 元鹿児島県・茨城県警本部長

多くの事件や災害の現場で陣頭指揮にあたった人間の苦悩と喜びを綴る。知られざる警察の素顔。

●四六判・定価：1890円

時事通信出版局